

脂肪吸引とは

脂肪吸引とは、皮下脂肪を吸引することで痩身を実現する手術です。デザイン後、カニューレと呼ばれる特殊な管を挿入し、仕上がりの美しさを計算しながら余分な皮下脂肪を吸い上げていきます。脂肪吸引を行った部位は術後も脂肪がつきにくくなります。

脂肪吸引の持続性

脂肪吸引は半永久的に効果が持続する手術です。通常のダイエットでは脂肪細胞が小さくなるだけで、脂肪吸引を行うことで脂肪細胞の数自体を減らすことができるため、吸引部位についてはリバウンドの心配が極めて少なくなります。

脂肪吸引後の状態・ケアについて

・手術当日から24時間は傷口を濡らさないようにしてください。24時間経過以降は傷口周辺も含め身体を洗っていただけますが、身体が温まりすぎないようにぬるま湯での軽いシャワー程度にしてください。抜糸が終わるまでは血流が良くなることでの腫れを防ぐため、長時間の入浴や熱いお風呂を避けていただくことをおすすめします。

- ・1週間後に来院していただき、抜糸を行います。
- ・強い腫れは、1~2週間程度で引いていき、その後も時間の経過と共に腫れが引きます。
- ・内出血については、個人差がありますが数週間前後で消失します。
- ・脂肪吸引後にガードルやサポーター、フェイスバンドを着けることにより、吸引した部位が適度に圧迫されて浮腫みが出にくくなります。脂肪吸引をした直後から着用し、最低1ヶ月、可能であれば3ヶ月程度着用していただくのが望ましいです。手術部位や術後の経過によって装着期間は個人差がありますので、医師の指導に従ってください。
- ・圧迫着は理想としては1日中着用し、できる限り長時間着けていた方が術後の浮腫みや腫れが引きやすくなるため、回復が早く仕上がりも美しくなります。シャワーや入浴の際は外していただいて構いません。顔の脂肪吸引を行った場合、会社や学校に行っている間はフェイスバンドを外し、家にいる間はなるべく長い時間着けるようにしてください。
- ・飲酒は血流が良くなり腫れが長引く原因になりますので、1週間ほどお控えください。
- ・運動は血流が良くなり腫れが長引く原因になりますので、軽い運動は1週間、激しい運動は当面の間お控えください。

※経過観察をする目的で施術部位の写真を撮らせていただきます。撮影させていただいた写真に関しては、厳重に保管し患者様との経過観察以外で無断使用することはありませんのでご安心ください。
※気になる症状がある場合には1ヶ月程度様子を見てください。1ヶ月以上経過しても違和感が継続している場合、クリニックまでご連絡ください。

※授乳中の方は、術後48時間は断乳して頂きますようお願い致します。

脂肪吸引で生じる可能性のあるリスクについて

【内出血、皮下出血】

挿入部位周辺に内出血や皮下出血が生じる場合があります。最初は青黒い色みでその後黄色→肌色と変化していきます。出現や消失には個人差がありますが、数週間かかる場合があります。症状がひどい場合は穿刺や外科的処置が必要になることもあります。

【左右差】

手術直後より左右差が出る場合があります。ダウンタイム中はとくに左右差を強く感じる場合があります。元々人体は左右非対称であり、また個々の身体の形、筋肉の動き、普段の生活上の癖などが原因で、完全な左右対称にはならない場合があります。

【痛み】

局所麻酔の注射時に痛みがあります。術中は麻酔の効果で痛みはありませんが、術後麻酔が切れると痛む場合があります。痛みがある場合は処方される内服薬をお飲みください。

【腫れ、浮腫み】

当日より腫れや浮腫みが起こります。概ね2週間ほどで強い腫れは引いていきますが、むくみ感はその後も数ヶ月残ります。腫れを早く引かせるためには、ガードルやサポーター、フェイスバンドでの圧迫が非常に重要です。吸引した部位を適度に圧迫することで浮腫みが出にくくなります。脂肪吸引

をした直後から圧迫着を着用し、最低1ヶ月、可能であれば3ヶ月程度着用していただくのが望ましいです。

【感染】

術後、感染が生じると傷口の治りが悪くなったり、腫れが強くなる場合があります。場合により、抗生剤の内服、外科的処置などの対応が必要となる可能性があります。

【傷跡】

術後1～2ヶ月前後は赤みがあり硬く突っ張ったような感じがしますが、この時期を過ぎると徐々に白く柔らかな線となっていき目立ちにくくなります。

【脂肪塞栓、血栓（エコノミー症候群）】

極稀に注入した脂肪や採取の際の脂肪が血管を圧迫し、血流が悪くなってしまうことがあります。万が一発生した場合は、適切な処置を行います。

【漿液腫】

術後、体液が溜まってしまった場合、針を刺して液体を抜く処置を行います。

【色素沈着】

術後、吸引部位に色素沈着が見られる場合があります。時間経過によって解消します。

【採取部の拘縮】

採取部は1か月目で硬くなりますが、徐々に柔らかくなります。

【肥厚性瘢痕】

何らかの異常で傷の治りが遅くなると、傷が赤くなり盛り上がりることがあります。傷を越えて病変が広がることはありませんが、時にきのこ状に増大することはあります。

脂肪吸引をお受けいただけない方

妊娠中の方、親権者の同意がない未成年の方、挿入部位周辺に怪我や炎症がある方、麻酔剤にアレルギーをお持ちの方、その他医師が不可と判断した場合は手術を受けられません。